

仕業点検

点検箇所

■仕業点検と高速走行前の点検

事故を未然に防ぐには、車の状態をいつもよく知っておくことが大切です。仕業点検は毎日欠かさず行ってください。

また高速で走るときは車に大きな負担がかかります。高速走行（80km/h以上）の予定のある場合には、色字の項目も点検してください。

点検項目を次に示します。

黒字の項目は毎日点検する項目、色字の項目は、高速走行前に特に念入りに点検する項目です。

※印については、番号順に次の頁に詳しく説明してあります。

■点検は次の順序で実施してください。

1 前日の異常箇所

2 エンジン・フードを開けて

- ブレーキ・フルード、クラッチ・フルードの量 ※①
- バッテリー液の量 ※②
- エンジン・オイルの量 ※③
- オートマチック・トランスミッション・フルードの量 ※④

●ファン・ベルトの張り具合 ※⑤

●冷却水の量 ※⑥

●ラジエーター・キャップの取り付け状態

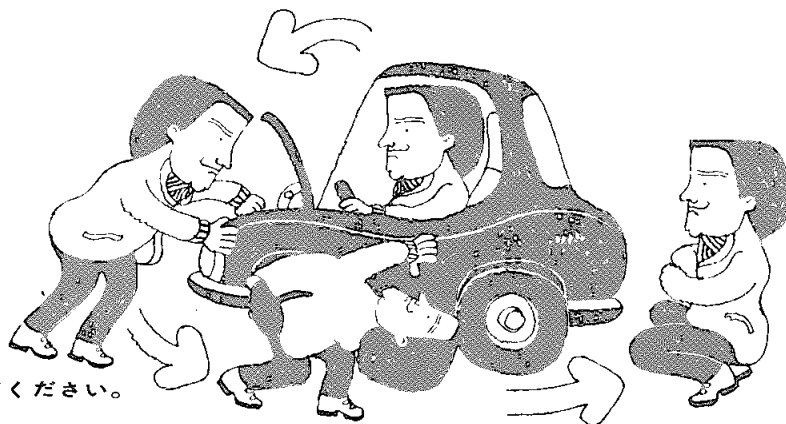
●ウインドウ・ウォッシャー液の量

3 運転席に座ってエンジンを始動して

●燃料計の作動

●燃料は十分か

●電流計、油圧計の作動または、警告灯の点滅具合



●ターン・シグナル・ランプの点滅

●ワイパー、ホーンの作動

●ウインドウ・ウォッシャー液の噴射具合

●リヤ・ビュー・ミラーの写影

●ハンドルの遊び・ガタ ※⑦

●ブレーキ・ペダルの踏み残り代 ※⑧

●パーキング・ブレーキの引き代 ※⑨

●ドア・ロックの具合

●セーフティ・ベルトの損傷、取り付け状態

4 車の前から

●ランプ類の点検、および汚れ、損傷 ※⑩

●ライセンス・プレートの汚れ、損傷

●タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異常摩耗 ※⑪

●タイヤに金属片、異物がないこと、溝の深さは1.6mm以上であること。 ※⑫

●車が傾いていないこと。

5 車の下をのぞいて

●冷却水、オイル漏れ点検

6 車の後から

●ランプ類の点灯および、汚れ、損傷 ※⑬

●ライセンス・プレートの汚れ、損傷

●排気ガスの色 ※⑭

●タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異常摩耗 ※⑮

●タイヤに金属片、異物がないこと、溝の深さは1.6mm以上であること。 ※⑯

●反射器の汚れ、損傷

●車が傾いていないこと。

7 徐行しながら

●水温計・速度計の作動

●ハンドルの重さ、振れ、取られ

●ブレーキの効き、片効き

点検のしかた

①ブレーキ・フルード、クラッチ・フルードの量

ブレーキ・フルード

リザーブ・タンクのMAXからMINの間にあればよく、レベル以下に減ったときはトヨタ純正ブレーキ・フルード・グリコール2400Fを補給してください。

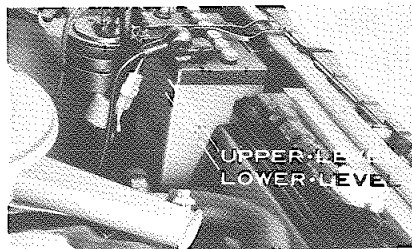
クラッチ・フルード

上方段つき部までフルードがあるか調べます。

②バッテリー液の量

バッテリーの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ります。

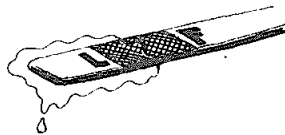
バッテリー・ケースは半透明になっていますので液量は外から点検できます。液面がUPPER LEVELとLOWER LEVELの間にあればよく、少ないときは蒸留水を補給してください。



③エンジン・オイルの量

レベル・ゲージを抜いて、先端をきれいにふき、差し込んでから再び抜いてFとLの間にオイルがあるかを調べます。

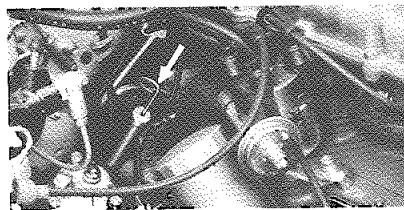
L以下の場合には補給が必要ですが、F以上には入れないでください。



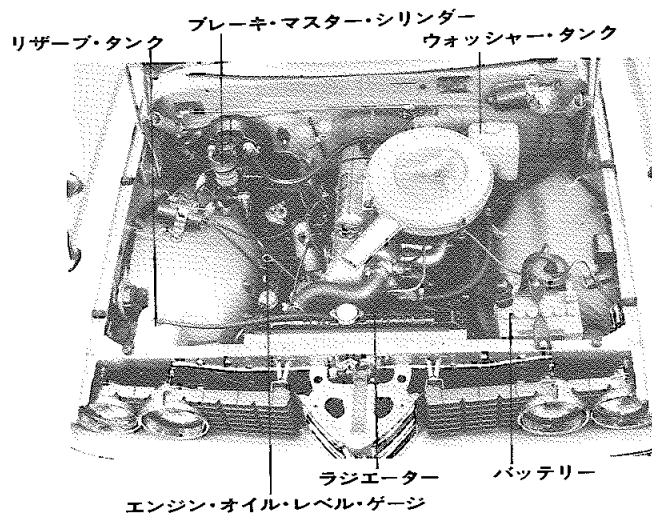
★注意事項

1. 点検するときは、車を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
2. オイル量はエンジン始動前かエンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

④オートマチック・トランスミッション・フルードの量



1. 車を水平な場所におき、パーキングブレーキを引きエンジンをアイドリング状態でシフト・レバーをP～①まで動かした後②にして調べます。
2. レベル・ゲージをきれいにふき再びもどして点検します。



①=仕業点検

3. フルードが不足しているときは、規定量まで、補給してください。フルードはトヨタ純正キャスル・オート・フルード・スペシャルをご使用ください。

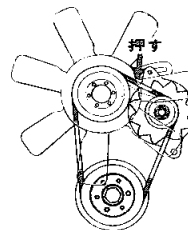
★注意事項

フルードは

規定量入れましょう。規定量以外ですと作動がにぶくなりません。

⑤ファン・ベルトの張り具合

図のように押えて、たわみ量を点検します。また亀裂やはがれがないかを調べます。



エンジン型式	たわみ量
18R 16R	8～13mm
M	13～20mm

⑥冷却水の量

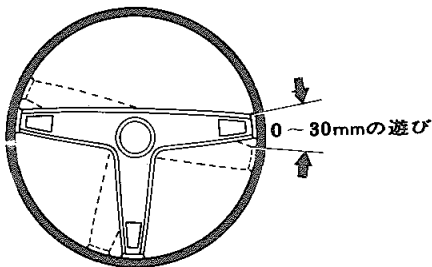
冷却水がリザーブ・タンクのレベルの、LOWからFULLの間にあるかを調べます。ラジエーターには、リザーブ・タンクが付いており、ラジエーター内の冷却水が少なくなると、リザーブ・タンクから自動的に補給されます。

★注意事項

FULLレベル以上、冷却水を入れる必要はありません。ラジエーター本体のキャップは通常はあけないでください。

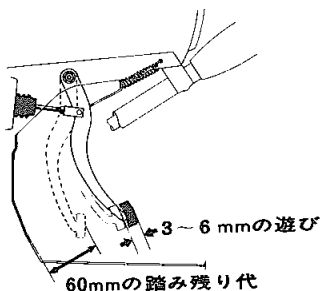
無断複製禁止

⑦ハンドルの遊び



⑧ブレーキ・ペダルの踏み残り代

ペダルを踏んで遊びと踏み残り代を調べます。



⑨パーキング・ブレーキ・レバーの引き代

センター・レバー式7ノッチ、ステッキ式22ノッチ以内の引き代があるかを調べます。ノッチとは、パーキング・ブレーキ・レバーにあるギザギザ状のものをいい、これを引くとカチカチ音がしますが、このカチという音が1ノッチに相当します。

⑩ランプ類の点検

次のランプが点灯するかを点検し、汚れや損傷がないかを調べます。

- ヘッドランプ
- ハザード・ウォーニング・ランプ
- パーキング・ランプ
- クリアランス・ランプ
- ストップ・ランプ
- テール・ランプ
- ライセンス・プレート・ランプ
- メーター・パイロット・ランプ
- ルーム・ランプ

エンジン・スイッチをONにして

- ターン・シグナル・ランプ
- バック・アップ・ランプ

⑪タイヤの空気圧

タイヤの空気圧が、適当であるかどうかをつぎの方法で調べます。

1. 外観から判断する目安はつぎのとおりです。



過大

適正

過小

2. タイヤ・プレッシャー・ゲージを使う場合バルブ・キャップをはずし、ゲージを空気が漏らないようにバルブにおしつけます。目盛板がとび出した後、離して目盛を読みます。

測定後空気が漏れないことをたしかめてキャップをはめます。

標準空気圧

除くEFI付車

タイヤ空気圧kg/cm ² ()高速時		
タイヤサイズ	前輪	後輪
6.45-13		
6.45-14		
6.45S-14	1.6 (1.9)	1.6 (1.9)
165SR-13		
165SR-14		
185/70HR14	1.7 (2.0)	1.7 (2.0)

EFI付車

6.45-14		
6.45S-14	1.7 (2.0)	1.7 (2.0)
185/70HR14		
165SR-14	1.6 (1.9)	1.6 (1.9)

タイヤの標準空気圧表が運転席ドアの後部に張ってあります。

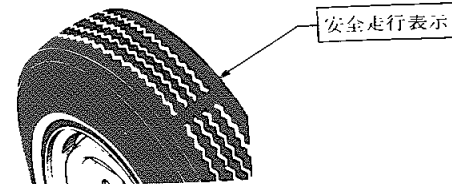
⑫タイヤ

1. スペア・タイヤの空気圧も調べてください。
2. 高速走行でのタイヤの空気圧は少し高めにします。低いとパンクを起こしやすく危険です。
3. チューブレス・タイヤの場合は、空気圧が極端に少ないとき、またはリムが変形したときなどは、タイヤとリムの密着が悪くなり空気もれるので特にご注意ください。

⑫タイヤの溝の深さ

安全走行表示(溝の深さが1.6mm)があらわれたらタイヤを早目に取り替えましょう。

溝が浅くなるとすべりやすくなり危険です。



⑬排気ガスの色

無色または薄青色…正常

黒色……………混合気が濃すぎるための不完全燃焼です。ただしチョークがきいているときは異常ではありません。



白色……………エンジン・オイルが燃えています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることがあります。

